

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13160

研究課題名(和文) 語彙調査によるアラビア語クレオールの「脱クレオール化」の解明：接触言語学への視座

研究課題名(英文) Elucidating "decreolization" of Arabic creoles by lexicography: A perspective on contact linguistics

研究代表者

仲尾 周一郎 (Nakao, Shuichiro)

大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・准教授

研究者番号：10750359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本課題研究では、2つのアラビア語クレオール(ヌビ語、ジュバ・アラビア語)とそれらの基層言語であるバリ語(ニールサハラ語族)の言語調査を行い、既存のスワヒリ語テキストと対照可能なこれら3言語の並行テキスト、ヌビ語語彙集(2000以上の見出し語)、バリ語文法スケッチのためのデータベースを構築した。これにより、代表者が「語彙的脱クレオール化」と呼ぶプロセスについて実証的にアプローチすることが可能になった。また、本研究課題では、従来の記述言語学では十分行われてこなかった、二言語(多言語)使用者の言語実態を包括的に記述するための方法論(双言語記述)の構築を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題では研究成果の積極的な学際的・国際的な対話や幅広い発信を行ったが、その結果として、アラビア語/アラブ地域研究、ビジン・クレオール研究、言語人類学、社会言語学、地理言語学、記述言語学など、多岐に亘る学術分野を横断する視座を示すことができた。特に代表者自身が専門とする記述言語学に対しては、ポストコロニアルな(広義の)言語学的研究を踏まえ、その限界を示すとともに実践可能な方法論(「双言語記述」など)を示したという学術的意義もある。これらに加え、ヌビ語やバリ語に関して母語話者コミュニティに還元可能な言語資料を収集し、部分的に還元を開始している点でも社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This project investigated two Arabic-based creoles (Nubi, Juba Arabic) and their major substrate language Bari (Nilo-Saharan) via fieldwork and collected various first-hand data, including parallel texts for these three languages (also comparable with the original Swahili text), Nubi vocabulary (more than 2000 entries), and Bari grammatical constructions. These data have made it possible to empirically investigate what the PI calls "lexical decreolization" of Juba Arabic, the process of assimilation towards the lexifier (Sudanese Arabic) only in the lexical domain. Also, this project has developed a new methodology for descriptive linguistic studies, which the PI dubbed "bilingual description," envisaging the comprehensive description of the linguistic competence and metalinguistic recognition by multilingual speakers or speech communities.

研究分野：言語学

キーワード：アラビア語クレオール バリ語 ニールサハラ語族 双言語記述 語彙的脱クレオール化 ヌビ語 ジュバ・アラビア語 南スーダン

1. 研究開始当初の背景

東アフリカには、アラビア語クレオールとして知られる二つの言語、すなわち南スーダンの共通語であるジュバ・アラビア語 (Juba Arabic) およびウガンダ・ケニアに住むヌビ人と呼ばれる集団の民族語であるヌビ語 (Nubi) が話される。両言語は、おおまかには 19 世紀中期に発生し、同世紀末に分岐したとされている。ヌビ語については、記述的な問題は残るものの既に 2 冊の参考文法書が出版されており、ジュバ・アラビア語については代表者が 2009 年以後長期にわたりフィールドワークを継続し、その成果のかなりの部分は 2017 年 3 月に博士論文として提出したジュバ・アラビア語参照文法にまとめている。こうした中、両言語の文法については、かなりの程度について明らかにされてきた。

アラビア語クレオール研究は、クレオール言語学が成熟期に入った 1970 年代に開始された。当時のクレオール言語学では、経験的知見に基づき脱クレオール化 (decreolization)、つまりクレオールがその基盤となった言語へと同化していく過程について理論構築が行われていた。ジュバ・アラビア語についても、脱クレオール化が示唆されるデータが提示され、将来的にはアラビア語方言(非クレオール)であるスーダン・アラビア語に同化していくと予想された。しかし、約半世紀を経た現在でも、ジュバ・アラビア語はヌビ語と概ね共通する、伝統的なアラビア語諸方言にはみられない文法体系を保持し続けてきた。

一方で、ジュバ・アラビア語とヌビ語はほぼ共通する文法をもつにも関わらず必ずしも相通性は高くなく、その原因は語彙にある。代表者はジュバ・アラビア語については未出版のデータをもち、20 世紀初頭のヌビ語の語彙集 (未出版) も複数収集済みであったが、現代のヌビ語については研究開始当初において、限られたデータしか収集できていなかった。

手元のデータから示唆されていたのは、ジュバ・アラビア語は語彙についてスーダン・アラビア語により接近しているという事実 (仮に「語彙的脱クレオール化」と呼ぶ) であった。これは文法に関してはジュバ・アラビア語が (特定のレジスター/場面変種などを除けば) スーダン・アラビア語の形態論的特徴を意識的に排除する様子とはコントラストをなしており、通時言語学的に解明されるべきパラドクスであることが予想された。

ただし、これをどのように描き出すか、という方法論上の問題は未解決であり、本課題を通じて、実地に新たな記述言語学の展開を構想する必要があった。

2. 研究の目的

本研究の当初の目的は、現代のヌビ語に関する語彙データを、20 世紀初頭の資料と対照させながら収集し、それを言語資料として広く提示するとともに、分岐後いかにジュバ・アラビア語との差異が開いていったのかを描き出すこと、「語彙的脱クレオール化」の実証であった。

しかし、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020 年以後はヌビ語の現地調査が実施困難となった。特に 20 世紀初頭の資料と対照させる形での語彙調査は長期のフィールドワークを要するため、現実的な観点からこの研究課題としての実施は一旦保留することとした。

一方で、在日南スーダン人研究者のデイビッド・ゴレ博士の協力を得られることとなり、それ以前に収集していたヌビ語と対照する形でのジュバ・アラビア語およびこれら 2 つのアラビア語クレオールの基層言語であるバリ語 (Bari; ナイル・サハラ語族) のデータ収集、3 言語の対照研究を当初の目的に加えた。また、同時並行的に、これらの言語と歴史的に関わりの深いその他のナイル・サハラ語族の諸言語、および隣接地域のバントゥ系リンガフランカの文献収集と分析を進め、実証的かつ立体的にアラビア語クレオールの歴史を描くことを目的に加えた。

さらに、代表者が別途進めてきた、エチオピア西部の事例 (ペルタ語とベニシャングル・アラビア語) を含め、ヌビ語と (ナイロビ・) スワヒリ語、バリ語とジュバ・アラビア語のような、民族語と (伝統的) 共通語の二言語使用の実態を描き出すための新たな記述言語学的方法論を構築することを目的とした。

3. 研究の方法

2019 年度には、当初の目的に従って夏期にケニア・ナイロビにてフィールドワークを行い、代表者がそれ以前に収集していたヌビ語の語彙データを整理し、修正や補足的な語彙収集を行うことで、見出し語で 1500 項目を超える程度の語彙集を作成した。この成果はオンラインでも公開し、実際にヌビ・コミュニティでも利用されている。また、同時に既存のスワヒリ語教材との対訳に基づくヌビ語教材作成のための資料収集、さらにヌビ語とスワヒリ語の多言語使用と言語接触に関するデータも収集した。この作業では、できる限り話者の社会および対象言語において自然に受け入れられることを最優先しつつ、ある程度対照可能な「翻訳」を試みるものであり、代表者はこれを仮に「創造的対訳」と呼んでいる。この過程で、民族語と共通語の 2 つを同時に調査し、話者の意識下における両言語の対応までを記述範囲に含む、「双言語記述」(bilingual description) という方法論の開発を進めた。

この方法論は、伝統的な (記述) 言語学においては単一言語話者を理論上の理想とする「言語体系」の記述が目指されてきたことに対する反省を含む、一つの批判的記述言語学 (critical

descriptive linguistics; 代表者による造語) の例に位置づけられ、代表者が別の研究課題において、エチオピア西部のベルタ語(ナイル・サハラ語族)・アラビア語バイリンガル社会に関する記述言語学的/アラビア語方言学的調査を開始した2017年に構想・実践を開始したものである。特に本課題では、特に国内での学際的な研究交流を背景として社会言語学的・言語人類学的観点からの分析を加え、言語イデオロギーや話者のメタ言語認識、流動的かつ非境界的な(「言語」間の境界を前提とできないような)言語使用を言語記述から排除することの危険性に着目する、という方向へと発展している。

2020-2023年度には、前述の理由により、日本国内でジュバ・アラビア語およびバリ語の調査を主とした研究を実施した。この調査においても双言語記述を採用し、個別言語の全体像を描くことに加え、個人の言語能力(ただし主に幼児期以来醸成された部分)や言語に関する意識を描くという二重構造をもつ言語記述を行った。この方法論の有用性を確認するとともに、極めて複雑な言語構造をもつバリ語のような言語を視野に入れたことにより理論的な陶冶を実施した。具体的なデータ収集の方法としては、2019年度に行ったスワヒリ語・ヌビ語対訳教材をもとに、ジュバ・アラビア語およびバリ語の対照資料を作成した。さらに、この近代を通じて相互に深いかわりを持ってきた東アフリカの4言語の対照コーパスに基づき、これら4言語間でどのような構造レベルの相互干渉が見られたかを明らかにした。また、以上の作業と同時並行して、ナイル・サハラ語族の100以上の言語、および南スーダン隣接地域におけるバントゥ系接触言語に関する先行研究を体系的に収集し、以上の4言語にみられる様々な言語特徴を、よりマクロな言語エコロジーおよび歴史の中に位置づけるという方法も実践した。

2023年度にはごく短期間ながら、再びケニア・ナイロビにてヌビ語の調査を行い、創造的対訳の手法により、ヌビ語によるイスラーム民話の対訳テキストの収集、および見出し語2000語程度の最新のヌビ語語彙集のチェックと増補作業を行った。

4. 研究成果

本課題の成果を一部に含む公開済み研究業績は、10本の論文・研究ノート、23本のその他記事、25回の口頭発表、1件のウェブページ作成である。分野別に分類するなら、それらはアラビア語系接触言語研究の視座から再構想したアラビア語/アラブ地域研究、南スーダンのローカルな言語観や文化に関する言語人類学的研究、双言語記述の方法論に関する社会言語学的研究、最近年のピジン・クレオール研究に関する批判的レビュー、ナイル・サハラ語族に関する地理言語学的研究、ジュバ・アラビア語、バリ語、ベニシャングル・アラビア語、ベルタ語に関する記述言語学的研究など多岐に亘る。ウェブページでは初期のヌビ語語彙集を暫定的に公開しているが、使用の便宜と著作権の自衛に関する問題が未解決であり、完成版の公開には至っていない。

未公開の研究成果としては、前述の対訳テキスト集およびその語彙、さらにバリ語に関してはその文法スケッチの素材が収集済みである。バリ語は19世紀以来の研究の伝統が存在するにも関わらず、包括的な音韻論的な全体像や、ごく基礎的な動詞形態統語論が明らかでない中で作業であり、多数の国内外での研究発表を経つつ、本課題終了時点でようやく論文投稿を開始できる水準に達したが、既にバリ語の動詞形態統語論に関する原稿を国外雑誌に投稿済みである。この対訳テキスト集は、授業資料等としての実際的使用を通じて、現在も修正・加筆を続けているが、完成したあかつきには上記ウェブページ等にて公開する予定である。

以上の成果のうち、特に本研究の背景や目的に関して明らかになった結論としては、とりあえず以下3点の要約が提示できると考えられる。

(1) ヌビ語やバリ語(およびその他のナイル・サハラ語族の諸言語)にはより古いアラビア語クレオールの形式(語彙項目、化石化した形態素等)が多く残っており、これらの言語は英語やスワヒリ語といった非アラビア語から借用を行う傾向が強い。一方ではジュバ・アラビア語では、かつて使用された語彙に代わり、現代的なスーダン・アラビア語と共通する語彙が多くみられ、かつヌビ語やバリ語にみられる化石化した形態素のほとんどが削除されており、かつスーダン・アラビア語ないし文語アラビア語から借用が行われやすい。この現象は、話者集団がジュバ・アラビア語とスーダン・アラビア語との連関を断ち切らず、かつそれとは独立した言語としてこの言語を(言語管理理論に基づくなら)「管理」してきたことを示唆する。

(2) バリ語はアラビア語クレオールの成立に関わった重要な基層言語の一つであり、極めて多くの共通点をもつが、一方で形態論的には極めて複雑な言語である(形態論的インベントリの多さ、その交替の予測不可能性、文法プロパティの非一貫性などについて)。ピジン・クレオール研究ではピジン・クレオールの「単純性」が問題になるが、多くの場合その基盤となった言語(lexifier)と比べての単純性のみが問題とされ、その単純性の由来として基層言語の構造が引かれることも多い。しかし、ジュバ・アラビア語の単純性はバリ語と比べても際立っており、上記の説明はアラビア語クレオールについてはそのまま成り立たせることはできない。

(3) 現代のヌビ語(特にケニア・ナイロビのキベラ地区)はスワヒリ語口語変種(ナイロビ・スワヒリ語など)の影響を極めて強く受けており、ほぼ常時コードスイッチングが行われている印象さえ受ける。これまで詳細な報告は行われてこなかったが、現代ヌビ語ではスワヒリ語の借用語および文法借用が多岐に亘って認められる。中でも、スワヒリ語にみられるアラビア語借用語が古いヌビ語の語彙と取り変わるといった現象が見られる。これは、スワヒリ語を経由したある種の(「語彙的」)脱クレオール化に似た現象と位置付けられる可能性がある。

以上については、将来的な理論構築に向けて引き続き議論を行う準備がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 n.a.
2. 論文標題 [+constrict glottis] reflexes of T and q in contact situations: Contact-induced change or inheritance?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Guram Chikovani & Zviad Tskhvediani (eds.) Studies on Arabic dialectology and sociolinguistics: Proceedings of the 13th AIDA International Conference. Kutaisi: Akaki Tsereteli State University.	6. 最初と最後の頁 387-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 n.a.
2. 論文標題 地域ごとの言語と文字 (アラブ)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イスラーム文化事典編集委員会編 『イスラーム文化事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 300-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 n.a.
2. 論文標題 社会言語学 (中級): アラビア語ビジン・クレオール研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本言語学会編 『日本言語学会夏期講座 2022 Seminar Handbook』	6. 最初と最後の頁 204-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 5
2. 論文標題 日本語の「のだ」とアラビア語 'inna	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 1
2. 論文標題 Sub-grouping of Nilo-Saharan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 1
2. 論文標題 Stop Series in Nilo-Saharan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 2
2. 論文標題 Grammatical relations in Nilo-Saharan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 9
2. 論文標題 ベニシヤングル・アラビア語の民話テキスト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6. 最初と最後の頁 27-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村橋勲・仲尾周一郎	4. 巻 176
2. 論文標題 留学という旅 日本の南スーダン人	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 4
2. 論文標題 アラビア語「発音」教育に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外国語のフロンティア	6. 最初と最後の頁 297-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 18
2. 論文標題 BOOK REVIEW: Takeda, Toshiyuki, Gendai Arabiago no Hatten to Arabu Bunka no Shin-jidai: Wangan-shokoku, Ejiputo kara Moritania made [Development of Modern Arabic and the New Era of Arab Culture: From the Gulf states, Egypt, up to Mauritania] (Kyoto: Nakanishiya Shuppan, 2019). 366 pp.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アラブ・イスラム研究	6. 最初と最後の頁 137-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 Arabi Juba: Un pidgin-creole du Soudan du Sud. By Stefano Manfredi. Paris: Peeters, 2017. Pp. x+227. Paperback Euro 28.00	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pidgin and Creole Languages	6. 最初と最後の頁 178-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 8
2. 論文標題 Fundamental Dialogues in Berta/Funj	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6. 最初と最後の頁 20-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 3
2. 論文標題 アラビア語における動詞連続 言語類型論的視点の外国語教育への応用試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 265-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 バリ語における示差的目的語標示 有標性パラドクスと脱逆受動化
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 System of 'Sibling' terms in Nilo-Saharan
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：アジア・アフリカ地理言語学研究 2022年度 第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 規範を記述する：ジュバ・アラビア語談話におけるメタ言語活動を例に
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開 2022年度第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Benishangul Arabic: An indigenous variety of Arabic in Ethiopia
3. 学会等名 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Numeral systems in Nilo-Saharan
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：アジア・アフリカ地理言語学研究 2022年度 第2回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Crop terms in Nilo-Saharan
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」2021年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 パイリンガリズムを「記述言語学」する：双言語記述の3つのケーススタディ
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開」2021年度第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 エチオピア周辺地域のナイル・サハラ諸語：音韻・統語・語彙的地域特徴
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会 2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 「のだ」と 'inna
3. 学会等名 第40回関西アラブ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Animal vocabulary in Nilo-Saharan
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 言語記述と（認知）バイアス：アラビア語クレオールのトーンをめぐって
3. 学会等名 2021年度第5回東京アフリカ言語学研究会（TALK）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Laryngeal contrast in Classical Arabic
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「通言語的観点からみた音声類型論」2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Convivial multilingualism as a modern African ethos: cases of East African non-Arab Arabophone societies
3. 学会等名 Institutskolloquium Sommersemester 2021, Institut fuer Ethnologie und Afrikastudien (ifeas), Mainz University (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Tone in Nubi
3. 学会等名 10th World Congress of African Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 アラビア語「発音」教育に寄せて
3. 学会等名 関西アラブ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Stop Series in Nilo-Saharan
3. 学会等名 Joint research project on "Studies in Asian and African Geolinguistics", ILCAA
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 単言語主義言語学を乗り越えるために：双言語記述のすすめ
3. 学会等名 第19回文法研究ワークショップ「言語接触の諸問題」オンライン（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Grammatical Relations in Nilo-Saharan
3. 学会等名 Joint research project on "Studies in Asian and African Geolinguistics", ILCAA
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 西アフリカ変体アラビア語 アフリカ文字言語史への一視座
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Did Pre-diasporic Arabic Have Two Ejectives? Evidence from Caucasus, South Arabia and Africa
3. 学会等名 Association Internationale de Dialectologie Arabe, 13th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 西アフリカ変体アラビア語とその周辺
3. 学会等名 第7回西アフリカ・イスラームノ歴史研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Swahili influence on Nubi (Arabic creole): An update from Kibera
3. 学会等名 Sociolinguistic Perspectives on Variation in Swahili: New Approaches to the Study of Language and its Social Context in East Africa (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 ベルタ語における焦点小辞 nyineng
3. 学会等名 「係り結び関連現象の通言語的研究に向けて」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 ベルタ語、ベニシャングル・アラビア語、ジュバ・アラビア語と受動に相当する諸構文
3. 学会等名 2019年度第2回「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 クレオールを超えて：ナイロビ・キベラにおけるヌビ語・スワヒリ語・シェン
3. 学会等名 2019年度第2回「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 能登印刷出版部	5. 総ページ数 514
3. 書名 藤井真一・川口博子・村橋勲（編）『サバンナの彼方 栗本英世教授退職記念文集』（担当箇所：「アラビア語の「開放」：「スーダン文化」形成史によせて」 pp. 171-177）	

1. 著者名 Keiko Takemura & Francis B. Nyamnjoh (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa	5. 総ページ数 326
3. 書名 Dynamism in African Languages and Literature: Towards Conceptualisation of African Potentials	

1. 著者名 梶茂樹 (編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 327
3. 書名 アフリカ諸語の声調・アクセント	

1. 著者名 横浜国立大学都市科学部 (編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1052
3. 書名 都市科学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Nubi Dictionary Project / Kamus ta Rutan Nubi https://sites.google.com/view/nubi-dictionary

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------